

文化・教育常任委員会 管内調査
令和2年11月26日（木）

1 京都先端科学大学 [於：京都太秦キャンパス]（京都市右京区）

【調査事項】

京都先端科学大学の特色とコロナ禍における取組について

【調査目的】

京都先端科学大学の教育における独自の特色やコロナ禍でのこれまでの感染防止の取組や今後の対応等を調査する。

【調査内容】

京都先端科学大学は、社会が求める即戦力となるグローバルな人材を育成・輩出する「京都発世界人材」を理念に掲げている。また、2020年4月には工学部を開設し、全学で5学部11学科5研究科体制となり、「社会科学」・「人文科学」・「自然科学」分野にわたる文理融合の総合大学へと発展した。

教育の特色としては、「実践的英語力」・「国際社会人基礎力」・「専門性」の3つを柱とし、リベラルアーツ教育を徹底する中でも特に英語に力を入れているとのことだった。

コロナ禍における取組としては2020年度秋学期の授業実施にあたり、国及び京都府からの指導により京都先端科学大学で作成した『大学の再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン』、及び「新しい生活様式」に基づき、対面授業と遠隔授業を併用している。対面授業においては、特に、「教室は収容定員の半数以下とすること」及び「各講時の授業終了後に消毒を励行すること」という2点を遵守している。

2021年度入試においては、新型コロナウイルスに感染した受験生への対応として、他の試験日程への振替等を行うとのことであり、試験会場ではマスクの着用や換気の徹底、面接時はシールドスタンドを設置するなど感染防止対策の徹底を行うとのことであった。

【主な質疑】

- ・コロナ禍における医療系学部の実習の状況について
- ・コロナ禍における学生の経済的状況について
- ・今後のICT教育の展開について など



調査事項を調査



施設を視察

2 北山エリア [於：京都府立京都学・歴彩館]（京都市左京区）

【調査事項】

北山エリアの整備状況について

【調査目的】

現在整備を行っている北山エリアの整備の進捗状況について調査をし、京都府立京都学・歴彩館、京都府立植物園を視察する。

【調査内容】

北山エリアにおいては、「憩いの緑と躍動するまちが融合した『文化創造の森』の創出～豊かな自然の中で創造される文化・芸術・学術・スポーツに身近に出会い、交流するまち 京都北山～」を基本コンセプトとする「北山エリア整備基本計画」を策定し、エリア内の施設整備等を順次推進することとしている。

京都府立京都学・歴彩館は、府民に京都の文化、歴史等に関する学習及び交流の場を提供するとともに、京都に関する資料等を収集、保存及び公開することにより京都における文化の発展、学術の振興に資するために設置され、2016年12月に開館した。2020年3月時点で合計100万冊を超える資料が所蔵されている。

京都府立植物園は1924年に日本で初めての公立総合植物園として開園して以来、世界中の植物が観賞できる緑に囲まれた憩いの場、様々な植物の観察を通じた教育・学習の場として「生きた植物の博物館」を目指している。2010年度からは府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画に基づき、順次整備に着手しており、植物園の魅力向上のための施設整備を継続的に推進している。また、最近では来園者の利便性向上のため、入園料の支払いにキャッシュレスを導入しているとのことであった。

【主な質疑】

- ・北山エリアの基本コンセプトについて
- ・若手芸術家の新たなマーケット開拓のための取組について
- ・植物園の閑散期における集客のための取組について
- ・コロナ禍における植物園の利用状況について など



京都学・歴彩館を視察



植物園を視察

3 京都府立文化芸術会館（京都市上京区）

【調査事項】

京都府立文化芸術会館でのコロナ禍における取組について

【調査目的】

新型コロナウイルスが文化活動に及ぼす影響や京都府立文化芸術会館でのこれまでの取組や今後の対応等を調査する。

【調査内容】

京都府立文化芸術会館は、文化芸術を愛する人々に発表と交流の場を提供し、京都における文化芸術の創造活動に寄与するため、1970年に開館し、ホールや展示室のほか、録音室や会議室等を有している。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、文化芸術会館は2020年4月13日から5月24日まで休館をし、それに伴い主催事業も中止となった。10月からは、来場者による大声での歓声等がないことを前提とする講演については、感染防止対策を講じた上で、収容率100%としている。しかし、再開館後も利用者は戻っておらず、10月末までの利用率は29%にとどまっているとのことであった。展示室・会議室についても利用率は展示室27%、会議室19%となっている。

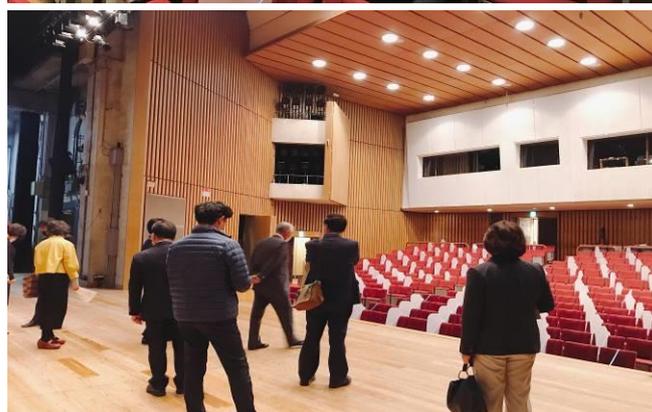
文化芸術会館では京都府に準拠したガイドラインの第1次版を5月24日に策定し、その後イベント緩和方針を受け10月1日に改定を行った。また、新型コロナウイルス感染症予防の取組として、サーモグラフィーカメラ・非接触型体温計の設置による検温の実施や、ホール内空調設備にイオン発生装置の設置、社会的距離の確保のためのフロアマーカールの設置及びホール座席の使用制限の実施などを行っているとのことであった。

【主な質疑】

- ・ 作品の展示方法について
- ・ 公演のネット配信の検討について など



調査事項を聴取



施設を視察